

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.1.15/25 No. 125-1 連絡先 FAX 042-555-1911



横田で米陸軍100名がパラシュート降下訓練 こんな訓練初めて！



横田基地を抱える周辺自治体に、「1月10日、サムライサージ訓練を行う」との通知が5日に防衛省・北関東防衛局からありました。訓練内容は「C-130輸送機(7機)が横田基地を南側から進入して上空通過し、その際に砂袋等(1機あたり砂袋1個、箱1個)の投下訓練を行う。なお、人員の降下訓練も実施する可能性がある。」というものでした。が、当日は事前の通知とは異なる米陸軍空挺部隊約100名のパラシュート降下訓練になりました。

降下訓練は午前中、C-130輸送機6機により3回にわたり行われ、多いときには40ものパラシュートが基地上空をおおいました。こんな訓練は初めてです。(左写真)

あきる野市の方が、C-130輸送機6機が飛行しているのを見て、「戦争でも始まったかと思うほどだ。」と言っていました。が、横田基地はまさに戦場のようでした。

東京平和委員会やしんぶん「赤旗」紙記者が横田基地広報等に問い合わせたところ、米陸軍兵士100名によるパラシュート降下訓練であったことが分かりました。防衛省北関東防衛局横田防衛事務所によると、過去10年ぐらいの間に横田基地でパラシュート降下訓練を実施した記録はないそうです。

参加部隊について横田基地広報は「安全管理上、詳細は明らかにできないが、太平洋地域に所属する陸軍部隊」としました。

太平洋地域の米陸軍のパラシュート部隊は、「ヤマサクラ61」に参加する予定の、アラスカ州の第25歩兵師団第4空挺師団ではないかとみられます。

米陸軍のパラシュート降下訓練は 11日も12日も無通告で続行

11日もパラシュート降下訓練が目撃されており、12日は8名のパラグライダー降下訓練(下写真)と60名のパラシュート降下訓練が行われていました。

ここは日本です。首都東京の、周辺は人口が密集している空軍基地です。砂袋7個と箱7個の投下訓練が米陸軍兵士100名のパラシュート等降下訓練に変わってしまう、10日だけの訓練が、11日12日と続行する、部隊の名前も明かさない、こんな勝手なことをやって良いのでしょうか。

サムライサージ訓練の目的は「日本を含む太平洋地域の安全を守り、緊急事態に対応するため」と言っていますが、これは、米軍横田基地所属のC-130輸送機が、太平洋地域の何処へでも緊急事態に対応するということです。

サムライサージ訓練は、昨年(2011年)11月2日に実施されたばかりです。その前は1年前の、2010年11月8日に実施されました。



日本を戦場に想定した 米軍主導の「ヤマサクラ61」演習 (No. 125-1 の裏面)

1月24日から2月6日まで伊丹駐屯地(兵庫県伊丹市)で実施する、米陸軍と陸上自衛隊との共同指揮所演習「ヤマサクラ61」は、日米共同といっても、米軍主導の米軍主体の演習です。

米国のアジア・太平洋地域での影響力拡大と権益確保をめざす戦略を支える軍事態勢の到達点のような演習です。米太平洋軍の統合作戦態勢として1人の統合任務部隊司令官が陸海空・海兵隊のすべての部隊を一括して指揮します。ヤマサクラ61の統合任務部隊司令官は在韓米軍第8陸軍司令官(初参加)で、統合任務部隊司令部はキャンプ座間(神奈川)におきます。

その下に、統合部隊地上構成司令部(米太平洋陸軍・米第1軍団[前方])を座間に、統合部隊航空構成司令部(米第13空軍)をハワイ・ヒッカムに、統合部隊海上構成司令部(米第7艦隊)を横須賀に、統合特殊作戦任務部隊(米第1特殊作戦群)をワシントン州フォートルイスにおきます。

しかし戦場と想定された演習場は日本です。中国を想定させる敵軍は、米子に上陸し大阪を占領、金沢から上陸し京都を占領、東京には新潟から攻めてくるなど様々なルートを通ります。これに対応した作戦、奪還作戦などを日米両軍が実施します。横田でパラシュート降下訓練をした部隊と思われる第25歩兵師団第4空挺旅団戦闘団は、占領された隠岐の島を奪還する任務です。

この演習に投入される戦車、武器なども膨大です。それに米軍機も投入されます。

横田基地には、ヤマサクラ61の統合部隊航空構成司令部である米第13空軍の第1分遣隊がいます。演習中、多数の戦闘機や攻撃機が横田基地からも出撃するようなことになりかねません。

そもそも、戦争をしないと誓った日本に米軍基地があるのは違法(伊達判決)ですが、日本を戦場に想定して軍事演習をやることは許されないことです。

横田飛来軍用機ランキング (横田基地撤去の会のHPのブログ 2012年1月3日より抜粋)

①	C-17	211
②	KC-135	61
③	KC-10	53
④	F/A18	47
⑤	UC-35D	34
⑥	MC-130	31
⑦	C-5	26
⑧	UC-12	23
⑨	HH-60	22
⑩	F-16	21

2011年に横田基地に飛来した軍用機のランキングです。横田基地常駐機や民間機のチャーター便は含みません。私なりに集めたデータを集計したもので、実際はもっと飛来しているでしょう。しかし、だいたいの傾向は わかると思います。

C-17のトップは2010年同様です。このうち35%がアラスカ州エルメンドルフ基地所属、28%がハワイ州ヒッカム基地所属です。

アラスカ、ハワイ、韓国も含む太平洋空軍の輸送ハブ基地としての横田基地の役割からでしょう。ただし、2010年よりも7割も離着陸がふえているのは、3月11日の震災後、被災して復旧中の仙台空港に大型機として最初に着陸し、沖縄からの救援物資など被災地に運び込む中継基地としての役割も果たしたからです。

2, 3位の空中給油機も横田基地の重要な役割を物語っています。

4位のF/A-18は2010年は78回の飛来で4割ほど減っています。ほとんどが海兵隊のもので、岩国基地所属あるいはローテーション配備で本国の海兵隊基地や海軍基地から岩国に来ているものです。暮れには海軍厚木基地のスーパーホーネットが来て、1時間半ほどで帰りましたが、海兵隊のホーネットはだいたい一泊二日です。

5位のUC-35Dは海兵隊・普天間所属です。だいたい、来て30分~1時間ほどで出て行ってしまいますので、もっと多いのかもしれませんが。

6位のMC-130は例年沖縄から台風避難で来ることが多いのですが、去年は3月16日に被災した仙台空港へ固定翼機で最初の着陸をはたし、被災地への物資の輸送を行っていました。

7位のC-5ギャラクシーは、米軍では最大の輸送機です。燃費も悪くあまり使われなくなったようです。独特のエンジン音で、自宅にいてもわかります。

8位のUC-12は海軍・嘉手納からと海兵隊・岩国からがあります。(以下略)